

兵庫県内の失語症当事者会活動状況実態調査第2報

～当事者・学生ボランティア視点からの検討～

服巻陽子¹⁾ 石塚君予²⁾ 田中義之³⁾ 笹岡岳⁴⁾



兵庫県言語聴覚士会

- 1) 荻原みさき病院 リハビリテーション部 2) 関西労災病院 中央リハビリテーション部
 3) 神戸総合医療専門学校 言語聴覚士科 4) ツカザキ病院 リハビリテーション科

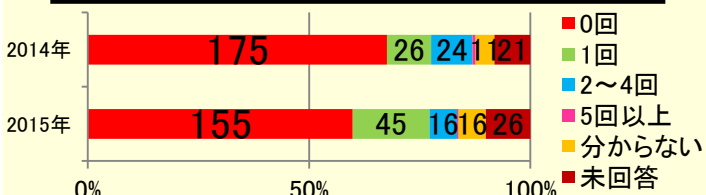
はじめに

今回、失語症当事者会に対する学生ボランティアの関わりと当事者会の実態について、アンケート調査を行ったので報告する

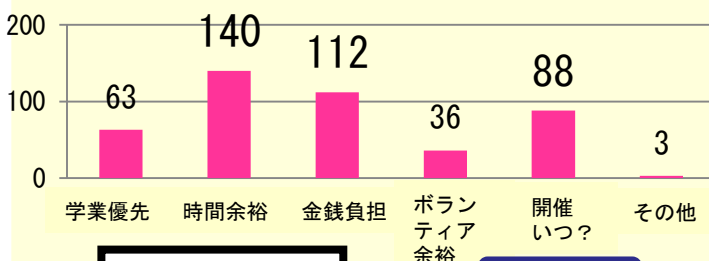
学生アンケート結果

学生回答数：259名 養成校：県内、5校から回収（100%）
 （内訳：1年生46%、2年生41%、3年生13%）

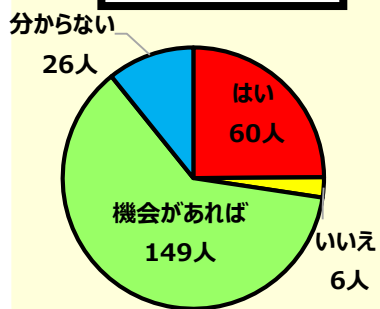
友の会参加（2014年度、2015年度＊12月まで）



友の会参加の阻害因子（複数回答）



今後の参加希望



自由記載

「参加メリット」
 座学では学べない体験、当事者さんと直接ふれあう機会、知識幅が広がる、等
 「参加にあたっての要望」
 自宅または学校近郊あれば行きやすい、事前に日時を知りたい等

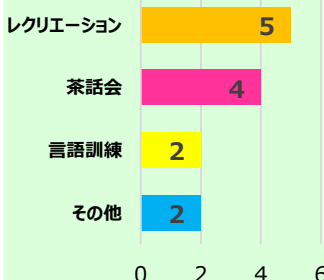
対象・方法

アンケート実施期間：2015年11月20日～12月28日
 対象：本研究の主旨に同意が得られた県下ST養成校と当事者会にアンケート配布し、郵送、mail、faxで回収

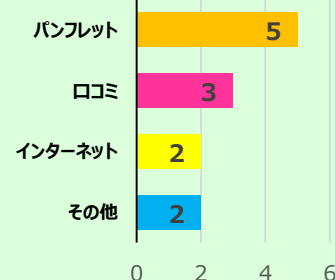
当事者会アンケート結果

回答数：5団体
 平均年齢：60代～70代が中心

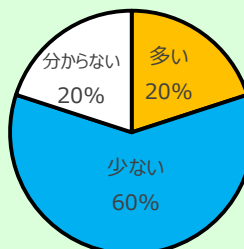
活動内容（複数回答）



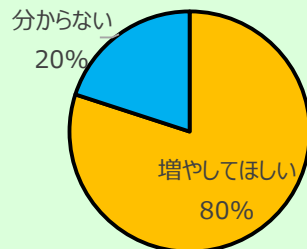
会員募集方法（複数回答）



学生ボランティア数



県士会などでの広報



自由記載

「ボランティア参加について」
 ボランティア人数が少ないので助けてくれるとありがたい、当事者を通じてコミュニケーション力をつけてもらえれば、等
 「県士会への要望」
 当事者会を通じて地域の要望をもっと取り入れてほしい、失語症のことをもっと世の中に広めてほしい、等

まとめ

失語症当事者会は年々高齢化が進み、運営にあたってボランティア参加は不可欠である。新規会員も募集しているがなかなか集まらないのが現状である。当事者会からの要望として、「学生がボランティア活動を通じて、当事者会の必要性に気づき、STとなった時に、その経験を現場で伝えてほしい」という願いがある。

一方、学生からは、「当事者会は座学では学べない貴重な体験をする場である」という意見が多く聞かれた。学業との両立、金銭面の問題など、参加阻害因子も明らかとなった

今後

兵庫県言語聴覚士会として

- ① 県下の当事者会の活動状況を把握し、当事者会員募集を広報する
- ② 当事者会イベントやセミナーなどを把握し、各養成校へボランティア参加を募集する
- ③ ボランティア負担軽減と継続したサポート体制を検討する

